

令和5年度 いのちの授業 事例集（小学校）【特別活動】

掲載数

102

地区	学年	教科等	テーマ	内 容	参考事項（講師・教材等）
1 川崎市	小6	特別活動	性の多様性	性の多様性プログラムではゲストスピーカーの体験談を通じて、自分らしさについて考えた。性はLGBTだけでなく、人の数だけあるということ、また、決めていない、決められない、決めたくないという人もいて、それが当然だということを知った。この学習を通して、自分らしく安心して生活するために今からできることや、電話相談・情報サイト・居場所交流会など様々な相談する場所があるということを知った。	川崎市教育委員会多文化共生教育担当職員 LGBTQ当事者
2 川崎市	小2	特別活動	食育 「いろいろたべよう パート2」	1年生の時に「いろいろたべよう」の学習を行い、給食にはいろいろな食材が使われていたり、調理する人の気持ちが込められていることを知った。2年生では、本学習のパート2として、食材によっていろいろな栄養素が含まれていることや、栄養素には体を支える役割があることを学習した。好き嫌いをして偏った食生活を送ると、体の調子を崩したり、健康的な生活を送ることができないことを知ることができた。学習を通して、日頃から苦手な食べ物にも挑戦しようとする児童が見られた。	講師：本校栄養教諭
3 川崎市	小1	特別活動	人権尊重教育	子どもの権利学習資料「かがやき」を活用して、子どもたちひとりひとりが幸せな生活を送るための「権利」について学習した。権利とは、誰もがもっているもので、安心して幸せに生活するために必要なものであることを確認した。自分が心配な気持ちになってしまう時や、自分が大切にされていると感じる時について考えを交流した。様々な場面について考えを共有することで、周りの人から大切にされていることを改めて認識できている児童が多かった。また、自分と同じように周りの友達の権利も大切にされるべきものであることを確認し、自分だけが幸せに生きるのではなく、みんなが幸せに生きることができるように考えて続けることが大切だと伝えた。	低学年用権利学習資料 「かがやき」
4 川崎市	小1	特別活動	食育 「ぎゅうにゅうのチカラ」	給食で出される牛乳は、成長期の児童にとって大切な食品であるが、1年生には家庭で牛乳を飲む機会も少なかったり、牛乳のおいしさや味に苦手感をもったりする児童もいた。また、気温が下がることで牛乳を残す児童も増えてきた。児童に、どうして毎日の給食に牛乳がでるのか考えさせ、栄養教諭からの牛乳の働きについての話を聞いた。牛乳を飲むとどんな良いことがあるか話し合い、それをもとに自分のめあてを考えた。めあてには、自分の体や心のことだけでなく、仔牛のための牛乳を分けてもらっているから大切にしたいというものもあった。	T1 担任 T2 栄養教諭

5	川崎市	小1	特別活動	食育 「いろいろたべよう」	<p>身近な存在である給食には、いろいろな食品が使われており、その食品の一つ一つには、それぞれはたらきがあること、また、自分たちの成長に関わっている食品を知ること、いろいろ食べようとする意識を高めたいと考えた。良い例と悪い例を視覚的に認識させ、「いろいろ食べることの大切さを知り、様々な食品を食べる子に育てほしい」と願い、この授業を行った。</p> <p>3匹のこぶたの紙芝居を用いて、食べ物にはそれぞれ働きがあり、いろいろなものを食べることが大切であることを伝えた。これからどのような食べ方をしたらよいかを考え、一人一人がめあてを立てた。健康で丈夫な体をつくっていくために、苦手な食べ物を食べようと挑戦する姿が見られた。</p>	T 1 担任 T 2 栄養教諭
6	川崎市	小6	特別活動	いろいろな性について学ぼう～LGBTQについて～	<p>サッカーをしているアライグマとリボンをしているアライグマのイラストから、男の子か女の子か考え性別は見た目だけではわからないということに気づかせるとともに、性は本当に2つだけなのか考えるきっかけとした。</p> <p>動画を視聴し、見る前と今で変わったことは何かワークシートに記入し意見交流をした。セクシャルマイノリティの子が男女で分かれる場面に戸惑っていることや、笑いやいじめの対象になってしまいやすいこと、自分の生きていく姿が思い描きにくいことに気づき、あたりまえを見直す姿が見られた。最後に違いを大切に工夫について考え、「自分と相手は違う」ことを意識する、いろいろな違いについて知っていく、という意見が出た。</p>	Ally Teacher's Tool Kit 制作：認定特定非営利活動法人ReBit
7	川崎市	小6	特別活動	「折れない心を育てる」 【いのちの授業】	<p>体育館で講演形式で授業を行い、「1. 苦しみからの支えに気付く」「2. わたしにできること」「3. 自分を認め大切にする」という内容でステップを踏みながら、児童はワークシートに自分の思いを書き込んでいった。苦しい時には、大切な人や好きなこと、将来の夢を支えにしていくことが大事であること、また、苦しんでいる人がいたら、話を聞いてあげること、そして、自分を認め大切にすることを学んだ。学習後の感想には、児童の素直な気持ちが書かれていた。</p>	講師 一般社団法人エンドオブライフ・ケア協会
8	川崎市	小1	特別活動	たいせつなからだ	<p>養護教諭とのTTで活動を設定した。休み時間や体育の活動を振り返った後、自分の体がどのようなになっているのかを想像し、「みんなのからだをたいせつにするには、どうしたらいいだろう。」という課題で考えを交流した。児童から出た考えは、体の清潔に繋がる内容に偏った。そこで、養護教諭に絵本を読み聞かせをしてもらい、見られたり触られたりしてはいけないプライベートゾーンがあることを理解した。自分だけでなく、まわりの人の体を大切にするために気を付けていきたいことについて考えを深めることができた。</p>	絵本 「おしえてくもくん」

9	川崎市	小2	特別活動	いろいろ食べよう	<p>栄養教諭とのTTで活動を設定した。事前に、給食を食べた、残した、好きな食材、嫌いな食材などのアンケートを行った。その結果を基に、「食べものにはどんなはたらきがあるのだろう」という課題で考えを交流した。今までの経験で知っている言葉はあったが、意味理解までは及ばなかった。そこで、栄養教諭に紙芝居を読み聞かせしてもらい、給食でよく出る食材はどんな働きがあり、なんのためにあるのかを理解した。食材一つ一つが自分の体を作っていることを実感し、好き嫌いをなくそうと意識を高めることができた。</p>	紙芝居 「3びきのこぶた」
10	川崎市	小複合	特別活動	防犯教育 「犯罪から身を守るために」	<p>授業時間中に危険物を所持した不審者が校舎内に侵入したという想定のもと、不審者役(中原警察署 防犯係)の動きに合わせた教職員と児童の対応の訓練を行った。学校に恐怖心をもたないよう低学年は退避行動と放送で不審者の位置を把握するのみで、中学年と高学年は実際に警察署の防犯係の方が声を出して廊下を歩きまわり訓練を実施した。緊張感をもって取り組み、警察署の方からの話を聞き自分の身を守る大切さを学び各クラスでの反省を行った。</p>	全校での実施 講師 中原警察署 防犯係
11	川崎市	小複合	特別活動	総合防災教育 「放課後や授業内で地震が発生し、火事が起きた時の対応について」	<p>地震発生時の初期の安全確保の仕方や火事が起きた際の避難の仕方を学んだ。低学年は下校中やわくわくプラザ内での避難方法を学び、高学年は避難時の約束と避難経路を確認した。全校で実施をしない訓練で、下校中など集中力の続かない時間ではあったが、緊張感をもって取り組むことができた。命を守る大切さについて改めて考える機会となった。</p>	低学年は下校中やわくわくプラザ内での実施。高学年は授業内での実施。
12	川崎市	小4	特別活動	食に関する指導 「食品ロスを減らして健康になろう」	<p>苦手な食材を避けて食べるなど、毎日の給食で残食がある。一人一人の残食は少なくても、学級全体となると残食量が多くなるのが実態だ。また、1日1人あたり茶碗1杯の食品ロスが生じていると言われてる。そこで、給食ができるまでには、生産者や食品を運ぶドライバー、給食調理員など多くの人が携わっていることや、しっかり食べるこことが私たちの健康へつながることを学んだ。そこから、食品ロスを減らして健康になるために自分にできることを考えた。作っている人に感謝の気持ちを持って食べる、苦手なものも少しは食べるなど目標を立てて、給食の時間に実践した。</p>	担任と学校栄養職員で授業実施。 3年でも実施。 関連した授業を1・2年、5・6年でも実施。
13	川崎市	小2	特別活動	食育 「大切に食べよう」	<p>普段の自分の食生活や、クラス・学校全体での残食量を見返し、なぜ食べ残しが多いのか考えた。食べ残しは「食品ロス」の一つで、食品ロスが続くとどうなるかSDGsの観点から考えていった。その日の給食に出る「大豆ミートのカレー」もSDGsを意識してきた献立であることを知り、これから自分たちが意識していけること・学校ができることを考えていった。学習後、自分たちが食べられる量を考え、無理なく、残食なく給食を食べる姿へ繋がっていった。</p>	授業者：担任・学校栄養士 教材：川崎市特別活動研究会「大切に食べよう」6年生の実践報告より

14	川崎市	小4	特別活動	認知症サポーター養成講座	<p>様々な世代の地域住民が認知症について学ぶことによって、より一層認知症への理解を深め、認知症の方が安心して暮らせる地域にすることを目的に行った。</p> <p>当日は、講話や読み聞かせを通して、認知症の実態や自分たちにできるかかわり方などについて学んだ。認知症の方の記憶の状態を自作した模型で説明していただいたり、児童の疑問にも答えていただいたりしたことで、講座前より身近なこととしてとらえられるようになった。</p>	資料や絵本、自作の模型等を用意していただき、理解が深まった。
15	川崎市	小3	特別活動	SOSの出し方受け止め方	<p>自分の心の痛みや傷は、抱え込まずに言葉に出して助けを求め相談することの大切さを、教材動画や話し合いなどから知ることができた。自分の好きなことが自分を支え自分が頑張れる原動力～レジリエンス～になること、それは一人一人違うことなどを理解することができた。自他を大切にすること、声に出して伝える大切さを感じ実践していこうという思いを持たせることができた。</p>	全学年で実施 巡回カウンセラーの仕事の説明を参考資料に使用
16	川崎市	小5	特別活動	人権移動教室「人権について」	<p>横浜国際人権センターによる人権移動教室を行った。皆が共通して願っていることは「死にたくない」「幸せになりたい」ということだ、自分も周りの皆も同じなんだと、人権を分かりやすい言葉で理解していた。また『国境なき医師団』の活動を動画で視聴し、戦争の悲惨さや人々のために命懸けで働いている人たちがいることを知った。今の自分達に何ができるか考え、まずは身近な人に親切にすることから始めてみよう、人権を自分事として捉えていた。</p>	横浜国際人権センター
17	川崎市	小複合	特別活動	いじめ防止教育	<p>児童の学校生活で身近に起きている場面（仲間に入れてもらえず一人ぼっちになってしまう場面、やめてと言ってもしつこく嫌なことをいわれる場面）を例に挙げて教師が再現し、辛い思いをしている児童、その様子を見ている児童の気持ちを考え、自分たちに何ができるか意見を交流した。全校アンケートに寄せられた友達と一緒にいて安心できた・勇気をもらえた・頑張ろうと思えたという声を紹介し、困っている人、悲しんでいる人の力になれるのは、そばにいる友達であることを伝え、力になってあげる4つの具体的な行動を示した。スローガン「みんなが笑顔で幸せな学校」を目指し、友達を思う優しい言葉や頑張る姿が、周りの友達に勇気や元気を与えることができるとおさえた。</p>	教師が再現したり、実際に自分だったらどのように行動するかを代表児童にやってもらうことで、より自分事として考えることができたと思う。
18	川崎市	小複合	特別活動	「いのちの誕生」と「自分を大切にしよう」	<p>みんなには、「いのちのもと」が入っている。命を育む場所である胸・性器・おしり・口はプライベートゾーンと言って、大切にしなければならない場所であり、他の人が勝手に見たり触ったりしてはいけない。もし、そんな場面に遭ったら叫ぶ、逃げる、信頼できる大人に相談することが大切。また、生まれるときの性別は決まっているが、生まれてからは、自分はこうありたいと決めてよいことなど、自分を大切にすることの理由や考え方について話を伺った。また、針で穴を開けたくらいの小さな命の始まりから誕生するまでの「子宮」や「胎盤」の役目や産道を通る赤ちゃんの工夫の話の話を聞いたり、赤ちゃんの心音を聞いたり、いのちの誕生の話がうかがった。</p>	講師 神奈川県助産師会 スライドや模型を使って説明をしていただき、とても分かりやすかった。

19	相模原市	小複合	特別活動	性に関する指導 「プライベートゾーン」	水泳学習を行う際、日頃のトイレの使い方や、着がえ方について改めて指導した。人それぞれに、プライベートゾーンがあり、他の人には見せても触らせてもいけないことを絵本や文部科学省の動画を通して指導した。口もプライベートゾーンであることに、驚く児童もいた。水泳学習が終わった後も、体育などの着替える活動でも継続して意識することができた。	(参考資料) 相模原市 ・『性に関する指導』の手引き ・『だいじ だいじ どーこだ?』 作: 遠見 才希子 出版社: 大泉書店 ・生命 (いのち) の安全教育動画教材 (小学校 (低・中学年)) 2 「じぶんだけのたいせつなところ」 文部科学省
20	相模原市	小2	特別活動	みんな大切なのち	生命の誕生という奇跡的なことであつたり、誕生後は一日たりとも見放さない保護者の世話があつたことについて学習した。その中で自分も友だちも大切な命をもって生まれたことに気付かせた。また、自分本位な行動や弱いものいじめが生じてくる時期でもあるため、自分がされて嬉しかったことや、されて嫌だったことを考えさせ、自分も友だちも大切にしようとする気持ちについて考えた。	
21	相模原市	小1	特別活動	ふわふわことば	言われてうれしい言葉=ふわふわ言葉について、全校で考え、各学級で児童から出た言葉を一年間教室掲示し、学校全体で、一人ひとりの居場所を大切にし、ふわふわ言葉で学校が包まれるように年間を通して取り組んだ。	全学年
22	相模原市	小6	特別活動	人権・男女共同参画	人権月間に位置付け、「子どもの権利条約」「相模原市子どもの権利条約」の4つの柱の内容を知り、自分たちの生活とどのような関わりがあるのかを議論した。 議論をする中で、どれも大切な権利であることを確認した。また、世界中の子供達が平等に教育を受けられるように訴えたマララ=ユスフザイさんの話にも触れた。 学習の最後には、「子供は幸せに生きる権利をもっていて、かけがえのない存在であること」「みんなが楽しく生きていけるように一人ひとりの違いを認め合うこと」「自分自身を大切にすること」などを感じ、「人権感覚」「人権意識」につなげる子供たちの姿がみられた。	講師は相模原市立男女共同参画推進センター
23	相模原市	小3	特別活動	人権の花運動 「思いやりの心を育てよう」	12月の人権週間に合わせて再度、子供達の人権に関する知的理解と人権感覚の涵養を目指し実施した。まず、講師から人権についての話を聞いた。その後、1人1鉢パンジーやビオラの花を植えた。 今回の活動を通して、学級の中でも「今の言葉、相手の気持ちを考えていないよ。」などの声かけが増えた。人権についての知識が深まったことで、使う言葉を意識したり、相手の気持ちを考えたりする行動が増えた。また、毎日花の世話をする中で、植物のいのちを大切に思う心がさらに育つと感じた。	講師は相模原人権啓発活動地域ネットワーク協議会 (横浜地方法務局相模原支局、相模原人権擁護委員協議会、相模原市人権・男女参画課) 冊子「種をまこう」、プランター札、花の苗
24	相模原市	小4	特別活動	いのちのはなし	助産師の講話では、新しい命の誕生の仕組みや、プライベートゾーンの話聞き、自他を尊重し大切にすることを学んだ。	講師: 助産師

25	相模原市	小2	特別活動	命の誕生	<p>命が誕生するまでの過程や、母体の中での10ヶ月の成長過程、産まれてくるときの胎児の様子や助産師さんの対応の仕方など、2年生にも分かりやすい表現や具体物を使って説明していただいた。</p> <p>一人ひとりの誕生には、それぞれのストーリーがあり、この場にいるみんなが、かけがえのない大切な命であることを実感できる時間となった。自分を大切にすること、他人を大切にすることが、太古の昔から脈々と受け継がれてきた命のバトンをもつ私たちの責任であることを児童、保護者、教員皆で共有できたことがよかった。</p>	講師 助産院の助産師
26	相模原市	小5	特別活動	命の授業 「生命の誕生と、第二次性徴における体の変化について」	<p>前半は受精から体が形作られていくまでの過程、母親の体の変化、誰もが経験したことのある「生命の誕生」の瞬間について、具体的に模型や図を用いて説明をしていただいた。多くの人に愛されて生まれてきたこと、自分の意思で生まれてきたことを知り、児童らは「これから命を大切にしていきたい」と、強い願いをもった。後半は第二次性徴における体と心の変化について教えていただいた。不安が解消され、児童らは「成長が喜ばしいこと」「成長には個人差があること」と、理解を深めた。</p>	講師 助産院の助産師
27	相模原市	小1	特別活動	いのちの授業	<p>1年生 いのちの授業実践報告書 教科等：道徳テーマ：いのちのつながり 〔内容〕 自分たちが育てた朝顔を出発点に、育てている間の変化の喜びや苦労を考えることを通して、朝顔にも命があることに気づかせた。また、自分たちが植えた種を大切に育てたことで、次の新しい命が誕生することを確認することで、「命のつながり」に視点を向けた。 子どもたちは、自分の実体験と重なる教材『まりちゃんとあさがお』を通して学習を進めることで、意欲的に考えることができていた。 授業の最後に、関連教材として図書室にもある『いのちのいれもの』を読み聞かせることで、植物だけでなく動物や自分たち人間にも同じように「命のつながり」があることを理解していた。</p>	講師：本校児童支援専任 教材：『まりちゃんとあさがお』① 『いのちのいれもの』② 教材①の挿絵やワークシートを活用することで、児童が自分の考えを書くことができた。
28	相模原市	小2	特別活動	いのちの授業	<p>教科等：道徳テーマ：いのちのつながり 〔内容〕 自分たちが育てた朝顔を出発点に、育てている間の変化の喜びや苦労を考えることを通して、朝顔にも命があることに気づかせた。また、自分たちが植えた種を大切に育てたことで、次の新しい命が誕生することを確認することで、「命のつながり」に視点を向けた。 子どもたちは、自分の実体験と重なる教材『まりちゃんとあさがお』を通して学習を進めることで、意欲的に考えることができていた。 授業の最後に、関連教材として図書室にもある『いのちのいれもの』を読み聞かせることで、植物だけでなく動物や自分たち人間にも同じように「命のつながり」があることを理解していた。</p>	講師：本校児童支援専任 教材：『まりちゃんとあさがお』① 『いのちのいれもの』② 教材①の挿絵やワークシートを活用することで、児童が自分の考えを書くことができた。

29	相模原市	小3	特別活動	いのちの授業	<p>〔内容〕  「院内学級」をテーマに、自分達とは異なる場所で学びに励んでいる友だちの存在を学んだ。そこから、院内学級に通っていた宮越さんの詩を考えることで「限りある命を精一杯いきることの大切さ」に視点を向けた。  子どもたちは、自分達とほとんど同じ年齢の子どもが書いた詩を通して学習を進めることで、意欲的に考えることができていた。  授業の最後に、関連教材として図書室にもある『いのちのいれもの』を読み聞かせることで、植物だけでなく動物や自分たち人間にも同じように「命のつながり」があることを理解していた。</p>	<p>講師：本校児童支援専任  教材：「命あるかぎりいきよう」宮越由貴奈  いのちのいれもの②小菅正夫  教材①の挿絵やワークシートを活用することで、児童が自分の考えを書くことができた。</p>
30	相模原市	小4	特別活動	いのちの授業	<p>〔内容〕  「院内学級」をテーマに、自分達とは異なる場所で学びに励んでいる友だちの存在を学んだ。そこから、院内学級に通っていた宮越さんの詩を考えることで「限りある命を精一杯いきることの大切さ」に視点を向けた。  子どもたちは、自分達とほとんど同じ年齢の子どもが書いた詩を通して学習を進めることで、意欲的に考えることができていた。  授業の最後に、関連教材として図書室にもある『いのちのいれもの』を読み聞かせることで、植物だけでなく動物や自分たち人間にも同じように「命のつながり」があることを理解していた。</p>	<p>講師：本校児童支援専任  教材：「命あるかぎりいきよう」宮越由貴奈  いのちのいれもの②小菅正夫  教材①の挿絵やワークシートを活用することで、児童が自分の考えを書くことができた。</p>
31	相模原市	小5	特別活動	いのちの授業	<p>〔内容〕  自分達は「ペットなどの動物を大切にしている」一方で、「豚肉など動物を食べている」という話しから、人間以外の生き物とどのような関わりがあるか考え、人間は他の人と繋がったりたくさん生き物と関わったりして生きていることに気が付かせた。また、日頃の何気ない生活を振り返り、他の生き物と人間の関わりに視点を向けた。  子どもたちは、「かわいそう」「しかたがない」「あたりまえ」を読み、生き物を食べる場面から、自分達の行動や意識が多様であることに気がつくことができていた。  授業の最後に、自分の「いのち」は多くの生き物とかかわっていることを考え、学んだ。</p>	<p>講師：本校児童支援専任  教材：「かわいそう」「しかたがない」「あたりまえ」</p>
32	相模原市	小6	特別活動	いのちの授業	<p>〔内容〕  自分達は「ペットなどの動物を大切にしている」一方で、「豚肉など動物を食べている」という話しから、人間以外の生き物とどのような関わりがあるか考え、人間は他の人と繋がったりたくさん生き物と関わったりして生きていることに気が付かせた。また、日頃の何気ない生活を振り返り、他の生き物と人間の関わりに視点を向けた。  子どもたちは、「かわいそう」「しかたがない」「あたりまえ」を読み、生き物を食べる場面から、自分達の行動や意識が多様であることに気がつくことができていた。  授業の最後に、自分の「いのち」は多くの生き物とかかわっていることを考え、学んだ。</p>	<p>講師：本校児童支援専任  教材：「かわいそう」「しかたがない」「あたりまえ」</p>

33	相模原市	小2	特別活動	つながっている命～SDG's給食の取り組み～	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食の残食が多いことについて、子どもたちが課題意識を持ち、「残食がこの後どのような行き先をたどるのか」を調査した。残食は、引き取ってもらった後、動物の餌になり、その餌を食べた養豚を給食としていただいていることを子どもたちは学習した。フードロスをなくすためのSDG's給食の取り組みとも共同し、命が繋がっていることに気づき、食べ物の大切さなどについても考えることができた。</li> </ul>	フードエコロジーセンターの企画に参加することで詳しいフードロスについて知ることができた。
34	相模原市	小6	特別活動	九匹九色～ちがうっていいこと？わるいこと？～	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権週間の取り組みとして「自分とは違う個性に触れたときに、それを個性として受け止めることが大切である」という意識を高めるための授業を実践した。仲間の様々な個性について考える場を設定し、それを1つの個性として受け止め、相手の良さを見よとする心を育む実践に取り組んだ。</li> </ul>	「子どもの権利条約」の資料を活用した。5年生、4年生も同じ内容で取り組んだ。
35	相模原市	小6	特別活動	SNSの使い方	<p>SNSの使い方について事例を映像でみながら考えた。「自撮りした画像の扱い」「SNSでの言葉の伝わり方」について警察の方の話聞きながら何が問題でどんな危険が潜んでいるのかを知った。「SNSでの言葉の伝わり方」では表情が分からないSNS上で自分の意図していない思いが伝わってしまったことで自分や相手が傷つくことにも繋がることに気づき、考える児童が多くいた。</p>	講師は、SNSの犯罪トラブルに詳しい警察署職員 対象は、5、6年
36	相模原市	小3	特別活動	大切な命	<ul style="list-style-type: none"> <li>頑張って生まれてきた自分</li> <li>自分と命を大切に</li> <li>あなたを大切に思っている人がいる</li> <li>これから迎える思春期は乗り越えていく時期</li> <li>たくましく生きていこう</li> </ul> <p>教科との関連（生活、保健、道徳）</p>	助産婦さんを招き、話を聞く。
37	相模原市	小5	特別活動	大切な命	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホルモンの働きとしくみ</li> <li>大人への準備と責任</li> <li>体の変化、考え方、生き方の個人差</li> <li>将来を描く（最終学年に向けて）</li> </ul> <p>教科との関連（保健、理科、家庭、道徳）</p>	助産婦さんを招き、話を聞く。
38	相模原市	小1	特別活動	「かぞくのなかのわたし」	<ul style="list-style-type: none"> <li>へそのはたらきから、生まれたときの様子を知る。</li> <li>赤ちゃんが生まれたときの家族の気持ちを想像したり、実際に聞いてきたりして、どんな気持ちで自分の誕生を迎えたかを知る。</li> <li>自分の誕生を喜んでくれた家族のためにできることを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳「生きることを喜び、生命を大切にできる心をもつ」「父母、祖父母を敬愛し、家族の役に立つ喜びを知る」生活「じぶんでできるよ」と関連付けて扱った。</li> </ul>

39	相模原市	小3	特別活動	ちがうっていいこと？わるいこと？	<p>一緒に過ごす時間が長くなり、友だちともますます距離が縮まっていく一方で、自分の思いを優先してしまい友だちのことを考えられなかった行動や発言があった。</p> <p>そこで、「自分とは違う個性に触れたときに、差別をしたり嫌がったりするのではなく、相手の個性として受け止めることが大切であるという意識を高める」ことをねらいに設定した。グループでさまざまな話し合いをする中で、自分と違う人の意見にも耳を傾けるよう促した。</p> <p>授業後の振り返りでは、「みんなちがって、みんないい」「これからの日常生活や学校生活で、自分と意見が違っても、ちゃんと話を認めて、話すということを意識して生きていこうと思う」というものがあつた。一人ひとりの特徴を個性として受け止め、認め合い、それぞれの良さを発揮できるクラスにしていきたい。</p>	神奈川県教育委員会 「人権学習ワークシート集—人権教育実践のために 第17集（小・中学校編）—」
40	相模原市	小2	特別活動	性教育「みんな大切ないのち」	<p>ねらい：赤ちゃんが生まれるとき、命の通り道を通して生まれてきたこと、生まれてからも保護者の世話によって成長してきたことに気づく。一人ひとりが大切な存在であることから、友達と仲良くし助け合う態度を育てる。</p> <p>○NHK for schoolで出産シーンの動画を視聴し、赤ちゃんが生まれるときの様子を知る。</p> <p>○3kgの赤ちゃん人形を抱っこし、生まれた時のお母さんの気持ちを考える。</p> <p>○みんなが大切な存在であることに気づく。</p>	・3kgの赤ちゃん人形
41	相模原市	小1	特別活動	性教育「たいせつなからだ」	<p>自分の体のいろいろな器官に目を向け、いずれもかけがえのないものであると認識すると共に、性器が生命の誕生にかあくる重要な働きをしていることに気づくことで、自他の身体を大切にする気持ちを育てることをめあてとして実施した。おしりや胸などはむやみに他人に見せてはいけないことを理解できた。また、学習後は、遊びの中で、ふざけて友だちのおしりをたたくななどの行為を行うことがなくなった。</p>	相模原市教育委員会 「性に関する指導のてびき」（実践編）
42	相模原市	小6	特別活動	薬物乱用防止教育	<p>薬物乱用防止教室として、学校薬剤師さんからお話を伺う機会を持った。いわゆる危険薬物だけでなく、通常の医薬品も使い方を誤ると危険なことや、エナジードリンクのような身の回りの飲み物でも、飲み方によっては依存性や中毒性があることなどを教えていただいた。いわゆる危険ドラッグだけでなく、通常の医薬品でも家族など他者に処方されたものを飲んだり、過剰に摂取することの危険性を知ることができた。</p>	講師：学校薬剤師 資料：講師作成のパワーポイント
43	横須賀市	小2	特別活動	保健指導「おへそのひみつ」	<p>おへそはお母さんから栄養や酸素など、生きるために大切なものをもらっていた証拠であり、お腹の中で大切に育まれていた事をおへその秘密を通して知った。</p> <p>授業の最後に全員で赤ちゃん人形を抱く体験をしたが、とても大切そうに抱いており、感想でも自分の命を大切にしたいと書く児童がいた。</p>	赤ちゃん人形
44	横須賀市	小複合	特別活動	地震・つなみから命を守る（防災教育）	<p>大地震・津波が起きた場合に、命を守る行動が自分でとれるようにするための知識を得るために、防災教育・避難訓練を行った。</p> <p>DVDを見て避難についての知識を得て、実際に地震が起きたらどのように行動すればよいかを各クラスで話し合い、確認することができた。</p>	DVD『津波からにげる』

45	横須賀市	小4	特別活動	「子どもの権利を知ろう」学級活動(2) より良い人間関係の形成	子どもの権利条約で明文化されている権利のカードを、子どもたちで話し合いながらグループ分けしていくことで、人権について具体的に知識を得ることを目的とした。そのうえで、自他の権利を大切にし、より良い人間関係の形成につながる一助としたいということもねらいである。本授業により、子どもたち同士の話し合いによる、権利のグループ分けの中で「生きるための権利」や「守られる権利」について具体的に気づくことができ、自他ともに大切にされる存在であることについて改めて考えを深めることができた。	子どもの権利条約
46	横須賀市	小6	特別活動	不審者侵入時訓練	池田小学校の事件にふれた。実際に同じ小学生が何人も被害にあっていることを知った。自分がその場状況になったときに、正しい行動ができるかどうかを考えた。その中で、自分の命は自分で守ることが大切だという声や日頃の準備が大切だという声があった。その後の避難訓練では、真剣に自分事として取り組む姿が見られた。	
47	横須賀市	小6	特別活動	いじめ防止強化月間の取組	<p>生徒指導提要の変更にあたり、未然防止の観点より全校で「いじめ防止強化月間」を設けた。目的は、いじめ防止に関する取組を集中的に行うことにより、いじめの未然防止及び早期発見・早期対応を推進するとともに、年度内のいじめ解消に向けて、いじめ対策を一層強化することとし、年に3回実施した。</p> <p>【第一回】『ありがとうの日』</p> <p>◇実施方法</p> <p>①いじめが起きない環境をつくるために、日頃からあたたかい声かけや行動をする大切さについて考えさせる。</p> <p>②今までの生活の中での、あたたかい声かけや行動を想起させて共有する。また、その効果について考えさせる。</p> <p>③「ありがとうの木」を紹介し、活動を実施する。(試しに1枚書いてみるのも有効的)</p> <p>④いじめ防止強化月間の最終日に「ありがとうの木」をふり返り、今後の生活について考えさせる。</p> <p>⑤取り組んだ各クラスの「ありがとうの木」を各教室廊下に掲示する。</p> <p>◇実践結果</p> <p>いじめの起きない環境について考える際に「相手の命の大切さ」について考えることで、どのような言葉や行動を洗濯するべきなのかを考える姿が見られた。また、ニュアンスによって相手の心を傷つける言葉もあることを想起し、相手の人権を意識して言葉や行動を選択することを学ぶ姿が見られた。</p> <p>【第二回】『NO! いじめの標語』</p> <p>◇実施方法</p> <p>①いじめが起きない環境をつくるために、どういうものが「いじめ」になるのか、「いじめ」が起きないためにどのような言葉や行動をするとよいのかを考えさせる。</p> <p>②これからの生活の中での、クラスとして、どのような言葉や行動をするべきかを考えさせて共有する。</p> <p>③「NO! いじめの標語」を紹介し、活動を実施する。(低学年には標語の書き方を指導)</p> <p>*①～③は各掲示期間前に実施する。</p> <p>④取り組んだ各クラスの標語を2階渡り廊下に掲示する。</p> <p>⑤放送委員と協力し、「NO! いじめの標語」をお昼に紹介する。</p> <p>⑥いじめ防止強化月間の最終日に「NO! いじめの標語」をふり返り、今後の生活について考えさせる。</p> <p>◇実践結果</p> <p>6年生では「いじる」行為について考えた。いじる行為によって、相手が命を落とす可能性があることを再確認し、自分自身の生活を見つめなおした。「仲が良いとつい、言葉を間違えてしまうことがある」「自分の言葉で相手の命がなくなってしまうことまで考えて行動していないと思う」と考える姿が見られた。</p> <p>【第三回】『久里浜ピンクシャツデー』*実施予定</p> <p>◇実施方法</p> <p>①全職員が「ピンク」のものを着用する。(シャツ、ネクタイ、チーフ等)</p> <p>※「ピンク」のものがいない場合は資料の折り紙用ピンクシャツを作成し、胸元等に付ける。</p> <p>②朝の会で「ピンクシャツ」の由来について説話を行う。</p> <p>※説話用に資料PDFを活用する。(学年に応じてご活用ください。)</p> <p>③人権・いじめについて、ピンクシャツの由来を基に交流する。</p>	5月の他、12月・2月に実施

48	横須賀市	小1	特別活動	食育について	<p>食物は全て「命」であることを学習しました。年度初めの学習（食育）で、食べ物の「大切さ」「感謝」をいろいろな視点で考えました。日頃から当たり前前に食べているもの、好き嫌いをして食べ残しているものについて振り返りました。そして、今後はどのようにしていきたいかということも考えていきました。</p> <p>絵本も導入に使い、読み聞かせを行いました。子どもたちは今まで、考えもしなかったことに触れ、その日の給食から「食べ物」について考えて食べている姿が見られました。</p>	
49	横須賀市	小5	特別活動	救命救急講習	<p>保護者の方にもご参加いただき、親子活動として救命救急講習を行った。横須賀市消防局の方にゲストティーチャーとして来ていただき、心肺蘇生の重要性や方法などについて、実技を交えながら講話をしていただいた。</p> <p>一人一つずつ心肺蘇生のキットを配っていただき、実践することができた。また、心肺蘇生を行うことによる存命率のグラフなども示していただき、「重要性がよくわかった。」「いざとなったら自分も命を守るために行動したい。」という感想も聞かれた。</p>	<p>講師：横須賀市消防局の方 教材：心肺蘇生実践キット（?）</p>
50	湘南三浦	小1	特別活動	安全指導 「歩き方教室」	<p>体育館には踏み切りや信号機、横断歩道などが設置され、児童は実際に指定された歩道を歩きながら交通ルールを守ることや、安全な登下校の仕方を学んだ。</p>	警察署の職員
51	湘南三浦	小1	特別活動	安全指導 「歩き方教室」	<p>体育館に実際に見立てた踏み切りや信号機、横断歩道などが設置され、子どもたちは、歩きながら安全な登下校の仕方を学んだ。</p>	警察署の職員
52	湘南三浦	小1	特別活動	「平和教育」 へいわってどんなこと？	<p>世界では、戦争が起こっている。ニュースで得た情報から一部児童から偏った表現があったことから、学年団で相談し、平和教育を行うことにした。国と国の戦いが起こってしまうことの悲しみ、それと、個人は関係がないことを児童に伝えた。</p> <p>その後、戦争はどんなことなのか。私たちが暮らす日本でも起こっていた事実を中心に絵本を読み聞かせを行った。どんな風にみんなは暮らしていきたいか、と問い、話し合いをしていった。どの子も真剣な表情で参加し、平和な暮らしの大切さについて考えることができた。</p>	<p>(参考資料) 「へいわってすてきだね」ブロンズ新社 安里有生 ・詩「トビウオのぼうやはびょうきです」金の星社 いぬいとみこ ・作「へいわってどんなこと？」童心社 浜田桂子</p>
53	湘南三浦	小6	特別活動	学校における多様な集団の生活の向上	<p>修学旅行前に男女の体の発育・発達の復習を行い、体も心も人それぞれ個人差があることを振り返った。6年生では体だけでなく心も変化していくことに焦点をあて、人の性は「体の性」「心の性」「表現する性」「好きになる性」にわけられ、男女二つに分けられないことについて学習を進めた。LGBTQ+が4つの性のどこにあたるのかをみんな考えさせ、自分はどの辺かを気づくことで自分らしさを大切にしようしたり、一人一人の違いを認め合ったりする態度を育てた。その上で、修学旅行中のお風呂の入り方を確認し、すべての人が気持ちよく過ごせる生活態度を育てた。</p>	<p>(使用教材) 自作教材</p>

54	湘南三浦	小1	特別活動	遊びに行くときの約束、川遊びで気をつけること	夏休み前に、遊びに行く時は、おうちの人に「どこへ行く・誰と行く・何時に帰る」を伝えるという指導をした。また、川遊びに潜む危険について考え、子ども達だけで川遊びをしないという約束をした。自分の命は自分で守るという意識を持つことが大切であることを学んだ。	
55	湘南三浦	小複合	特別活動	心に大きな傷を残すいじめについて学び、意識を高め、いじめを許さない学校づくりを目指す	教職員研修に基づき、「いじめの種」を見逃さず、学校全体でいじめをなくすためのキャンペーンを行った。その中で、学年の発達段階や学級の実情に合わせて資料等を活用しながら、いじめは消えがたい心の傷を負わせてしまうことを学んだ。また、いじめやいじめにつながる言動を見かけたら、信頼できる大人に相談すること等を学んだ。また、職員内でもアイスブレイクに使えるゲームなどを学び合い、クラスの温かい雰囲気づくりに努めた。	NHK for school動画
56	湘南三浦	小2	特別活動	防災	阪神淡路大震災から29年、東日本大震災から13年そして、そして、元旦に起きた能登半島沖地震の津波被害。去年は、関東大震災から100年の年であった。子どもたちの防災意識は、対岸の火事である。自分と家族の命を守る避難方法、避難生活をどう乗り越えるか考えた。 〈津波てんでんこ〉 自分と家族の命を守る避難 どんな場所で地震に遭遇しても、しっかり避難できることが大切である。家族と避難行動を共有し、家族も無事であるには、〈てんでん〉に逃げることを学んだ。また、『これでいいってことはない』という被災者の言葉を紹介し、避難訓練で学んだこと、それ以上の行動をとることができるのかを考えた。 〈避難生活〉 自分の防災リュックを作ろう！ 避難生活を想定し、平常心を保って過ごすためには、自分にとって何が必要かを考えた。	通年(主として9月)で実施 東日本大震災被災地で現地の被災者の話を聞いて
57	湘南三浦	小6	特別活動	いのちの大切さや心配り	「国境なき医師団」の活動を通して、命の尊さを知るきっかけとなった。 また、人権とは何かを小学生にわかりやすく説明していただき、周りの人のことを考えることや助け合いの大切さを学ぶことができた。	5,6年生 横浜国際人権センター 人権移動教室
58	湘南三浦	小5	特別活動	ふれあい体験授業	町の子ども育成課職員、町保健師、出産を控えた妊婦さんを講師に迎えて人権教育を行った。いのちの芽生えやおなかの中で成長する赤ちゃんの様子、赤ちゃんがお母さんの身体に送る様々なサインなどについて話を真剣に伺った。また、妊婦さんの思いを直接お聞きし、自分や家族、友だちの、いのちの大切さについて考えた。	町の子ども育成課職員、町保健師、妊婦さん
59	湘南三浦	小5	特別活動	非行防止教室	茅ヶ崎警察署スクールサポーターの指導のもと、県立寒川高等学校の演劇部による教室。 題材としては、遺失物横領防止、暴力、器物破損等、いじめについて劇をし、その後高校生による小学生への語り掛けが行われた。劇の内容は5年生に分かりやすく、高校生からの質問についても自分事として捉えて考えていた。特にいじめの部分については、個の尊厳という生きていく上で大事な領域であることを教室を通して学んでいた。	茅ヶ崎警察署スクールサポーター 県立寒川高等学校 県教委学校支援課 県くらし安全交通課

60	県央	小6	特別活動	いのちの大切さ	心身の発育・発達は、男女や個人によって違いがあることを知る。命が誕生するときの映像や骨盤模型から赤ちゃんが生まれるところを見たり、子宮の役割を聞いたりした。子宮内で1つの精子と卵子が受精して命が生まれることを知った。命の誕生のすごさを実感し、命を大切にしていきたいという思いをワークシートに書いている児童が多く見られた。	講師は、認定子育てアドバイザー、家庭教育アドバイザーの先生。 5年生と合同
61	県央	小1	特別活動	うまれてきてくれて ありがとう	「うまれてきてくれて ありがとう」の絵本を読んだ。それから、受精してから生まれてくるまでの成長を知った。生まれる直前になると逆さ向きになることに驚く様子が見られた。その後、赤ちゃん自分たちのできることを比較し、自分の成長を感じていた。「一人一人、みんなが宝物」であること、そして「いいことみつけ名人」になってほしいという思いを聞いた。	
62	県央	小4	特別活動	よりよい人間関係の形成 「友だちを大切に」	事前に「仲間外し」「かげ口」「無視」をしたことがあるか、されたことがあるかのアンケートをとった。集計結果から、したことがある人が多いという現状に気付いた。児童は、話し合う中でこういったことが起こってしまう原因として、今までの関わりや自分の気持ちが高まった時に起こってしまうのではないかと考えた。そこで、友達とより良く過ごすためには、誰にでも平等に接することや相手のことを思いやることが大切だということに気付き、よりよく生活できるように、個人の目標を立てて実践した。その後の生活にも学習したことが生かされ、いじめに繋がるような言動が減り、明るい雰囲気を作っていくことができた。	(参考資料) みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動小学校編
63	県央	小6	特別活動	「命のはじまり」	最初に児童には、キリで小さく穴をあけた折り紙が配られた。なんの紙なのか不思議に思っていた児童が、そこに開いた小さな穴の大きさが、自分たちの命の始まりの大きさ(卵子の大きさ)だと説明されたときはとても驚いていた。そのあとは胎児の大きさを週ごとに見せてもらいながら、生まれるまでの過程を説明してもらった。卵子と精子が結びついて命が始まる奇跡、そしてその成長の過程を学び、自分の命の重さを自覚していた。また、思春期の児童の体の変化や心の成長についても学ぶことができ、児童の実態に合った学びの場となった。	講師は助産師の先生。 胎児の人形やスライド
64	県央	小1	特別活動	性教育 あかちゃんはどこから	赤ちゃんの人形を見たり、触れたりしながら自分の成長について考えさせた。また、資料を見ながら、赤ちゃんは父親と母親から生まれ、愛情によって育てられることを伝えた。 母親のおなかの中で赤ちゃんが成長していく様子を、実際の胎児の大きさで作った資料を提示し説明した。自分たちは、母親のおなかの中で大事に守られてきたことを実感する機会となった。	担任による授業 厚木愛甲地区小学校教育養護部会作成性教育指導案集

65	県央	小2	特別活動	性教育 おへそのひみつ	おへそのある生き物と、ない生き物についてクイズを出し、人間にはなぜおへそがあるかを考えさせた。その後、おなかの赤ちゃんはへその緒を通して、母親から栄養をもらって成長することを説明した。 自分たちはへその緒を通して栄養をもらい、大事な体が作られたこと、家族に大切にされて育てられたことを考える機会となった。	担任による授業 厚木愛甲地区小学校教育養護部会作成性教育指導案集
66	県央	小複合	特別活動	性・いのちの保健指導	各学年の発達段階に合わせ、以下のことをねらいとした授業を行った。 ・男女の体や心の成長と、それにとまなう体や心の変化について理解させ、性的な発達に適切に対応できるようにする。 ・生命誕生のすばらしさを感じ、自他の生命を大切にする態度を養う。 児童は、興味をもって話を聞き、自分の身体や心、命について考えを深めていた。	小1～6まで 各クラスごと 養護教諭が授業
67	県央	小3	特別活動	防災 「不審者から命を守る」	近年、学校周辺での不審者の目撃情報が増加している。そのため、学校内にも不審者が侵入する可能性がある。そんな時に備え、命を守る訓練として本授業を実践した。児童が不審者の学校内侵入に対して、放送に合わせて避難行動をとり、安全確保ができるようにした。事前に不審者侵入の合言葉を決めていたため、児童は迅速に行動することができていた。緊急時のことを不安に思う児童もいたが、自分たちは何をすべきかを話し合うとまずは避難行動をとることが最優先だと結論に結び付けることができていた。	講師： ①警察官 ②スクールサポーター
68	県央	小6	特別活動	防災教育 助け合おう 災害の後の生活	震災によって避難した人たちがどのような生活をしているのか写真やこれまでの学習、生活経験で学んだことを通して考えた。 予想される困難や必要になる物資などについて話し合い、協力して生活することの大切さについて考えた。 映像を見て、自分たちにできること、これからできるようになりたいことを考え、意見を出し合った。	防災学習テキスト 映像
69	県央	小2	特別活動	防災教育 下校中に自信に あった時の対応 について	普段何気なく通っている通学路を、「ガラスが割れて落ちてくる」「看板が落ちてくる」など、震災時に起きた危険に照らし合わせて、改めて見ていくことで、自身の身の守り方について考えた。 また、友達と自らの考えを交流させることで、自身の身の守り方に多くの選択肢をもつことができた。	防災学習テキスト 地図アプリ
70	県央	小4	特別活動	命を守る行動	社会科の学習と関連させて、避難所について学習した。 本校の避難所開設訓練の様子をスライドで見せることで実際の有事で、どのように命を守るのかを具体的に考えた。 生命の唯一性を再認識するとともに、命を守るための行動の必要性、皆に支えられて命を守る「公助・共助」について理解を深めた。	スライド資料

71	県央	小複合	特別活動	学校にいるとき地震が起きたら	避難訓練の事前指導を通して、学校で地震が来た場合の避難方法や、いのちの守り方について考えた。考えの共有から、幼稚園や保育園での学びを身につけている児童もいたが、初めて意識的に学ぶ児童も見受けられた。	(参考資料) 海老名市防災テキスト
72	県央	小複合	特別活動	不審者対応訓練	学校に不審者が侵入したときの対応として、訓練を行った。担任の合図で一か所に集まって待避行動をとること、放送を聞いて行動することができた。本校では、初めての訓練だった。警察官の話から、命を守ることにについて考え、行動することができていた。	講師 海老名警察署職員
73	県央	小6	特別活動	人の命を救うために自分ができることを考えよう。	AEDが市内のどこにあるか調べた。また、命を救うために自分にできることを考え伝え合った。	
74	県央	小4	特別活動	朝食の大切さを知ろう	朝食の大切さ、自分の健康に必要なバランスのよい食事について学習した。朝食をとる大切さや効果に加え、栄養バランスを考えて食べることが大切だということが理解できた。自分が食べた朝食に何を加えるとよいか、朝食の時間をとるために生活リズムを整えることが必要だなど、朝食への意識向上が見られた。	栄養教諭
75	県央	小2	特別活動	食育(栄養バランス)	「好き嫌いはある？」という導入から始まり、三色カードを用いてそれぞれの栄養素の働きについて学習した。苦手な食べものにも自分の健康や成長に必要な栄養が含まれていることを学んだ。これからは少しずつでも挑戦し、好き嫌いをなくしたいと思う児童が多くなり、食事への意欲がより高まった。	講師は栄養士 栄養素の三色カードを用いてわかりやすく分類した
76	県央	小複合	特別活動	いじめ防止	「暴言暴力、いじめ防止スローガン」に合わせ、いじめに繋がる事案の例を児童会役員の児童が劇で紹介し、全校に考えさせる機会を作った。各クラスで、暴言暴力やいじめについて学年・学級に合わせて、改めて一人ひとり考え、それぞれの考えを伝え合うことで、暴言暴力、いじめ防止ができるように指導した。	
77	県央	小複合	特別活動	みんなの思いが輝き続けるダイヤモンド	各学年が担当日を決め、心が温まる・明るくなる良い行いをした児童のエピソードを1人1枚書き、学年でまとめ、エピソードを集めたダイヤを作った。それを保健室隣の掲示板に貼り、誰でも見られるようにした。お互いの良い行動を見つけ合うことで、児童一人一人の友達に対する見方を広げることができた。児童が自由に見られる場所に貼ったことで、今後エピソードを読んだ児童がさらに人に優しくしようと考えたり行動が変容したりすることを期待している。	全学年

78	県央	小5	特別活動	たいじのきもち	<p>児童たちは、保健師さんが用意してくださった教具を通していのちの大切さを考える貴重な体験をしていた。具体では、胎児の成長過程が分かるフェルトの模型を触ったり児童が胎動を体験できる装置を着用してブルブルという胎動を感じたりした。また、生まれた後のおむつを替える体験や赤ちゃんの体重のペットボトルを抱えて動いてみる等の妊婦体験も体験できた。</p> <p>児童たちは、この授業を通して胎児の成長について興味を持ち、より身近に受け止めることができた。</p>	健康づくり推進課の3名の保健師
79	県央	小2	特別活動	おなかの赤ちゃん	<p>胎児の成長や出産の様子を知り、命の大切さを感じることができた。また命の尊さに気づき、自分や友だちを大切にすることを育てることができた。</p>	心音録音テープ エプロン 神様からのおくりもの (絵本)
80	県央	小複合	特別活動	SOSの出し方に関する教育	<p>自殺防止を見据え、5、6年生に対して『SOSの出し方に関する教育』を行った。「思春期になると悩みが増えるのは普通であること」「個人差があり、友達との差を感じることもあること」「この先の長い人生の中で苦しくて苦しくて仕方がなくなるほどの悩みにぶつかることもあること」を説明した。そして、悩んだ時にはどのような解決方法が考えられるか、どのような相談相手が考えられるかを児童の発言をもとに挙げ、教師からは担任以外の学校の教職員や保健師、中学校の教員にも相談することが可能であることを伝えた。</p>	保健師、担任、5、6年生児童
81	県央	小6	特別活動	SOS教室	<p>多感な時期を迎え、悩みを発信できない児童が増えるという現状を踏まえ、6年生に対して『SOS教育』を行った。成長し、思春期になると誰ものが何かしらの悩みを抱える傾向があるということも伝えた。また、悩みにも「個人差」があり、一人ひとり悩みは異なるということも確認した。その際に、どのように悩みと付き合っていくかや、悩んだ時に相談できる人や期間について考えさせ、「独りではない」ということを伝えた。悩みを抱えた際のSOSの出し方について、児童一人ひとりが考える機会をもった。</p>	養護教諭、保健師、 学級担任
82	県央	小複合	特別活動	自分の命は自分で守る行動ができるようになる。	<p>9月1日神奈川シェイクアウト訓練の意義と対処の仕方を動画を用いて各教室で担任が指導した。その後、シェイクアウト訓練を全校で行い、ふり返りをした。大切ないのちは自分で守るという意識が高まり、今後に生かしたいという前向きな意見が多く出た。</p>	視聴した教材：かなかな家族「シェイクアウトってなに？」神奈川県公式YouTube 「関東大震災復興100年教材」東京都教育委員会
83	中	小1	特別活動	性教育「自分やほかの人の体を大切にしよう」	<p>プライベートゾーンの4つのルールを知り自分の体を守るための対応策を考える学習を行った。人型イラストを見ながらプライベートゾーンの4つのルールについて知ったあと、自分の体を触られたり見られたりしたとき、どんな気持ちがするのかをみんなで想像した。「こわい」「いやだ」という意見が多く出たので、嫌なことをされたとき、どう対処すればいいのかを話し合った。「逃げる」「やめてと言う」という意見の他に「自分だけで解決するのではなく、大人に言うことも大切」と考えた児童もいた。</p>	養護教諭による指導 学級活動 1時間

84	中	小複合	特別活動	水辺の安全教室	<p>水泳学習や夏休みが始まる前に、PTA主催でライフセーバーや消防署の方を講師に招き、水辺の安全について学んだ。離岸流や海辺にあるフラッグの意味などを知り、安全に遊ぶために必要な知識を得ることができた。また、2Lペットボトルを使用し胸骨圧迫の仕方を実践した。話から、みんなの命を守るために、色々な人が関わってくれていることも知った。講習を受ける児童の真剣なまなざしから、安全に対する意識が向上したように感じた。</p>	<p>主催：PTA 講師：消防署職員、ライフセーバー 対象：全学年</p>
85	中	小1	特別活動	たいせつなからだ	<p>体には自分だけの場所「プライベートゾーン」があることを知らせ、いたずらをしたりされたりしないように気を付けようとする態度を養うことを目指し授業実践を行った。「体を清潔に保つためにパンツをはくのだな」「服でかくれているところはとっても大切な場所だから友達の体をむやみに触ったり、触られたりしてはいけないんだな」「トイレのときは、こうやっておしりをふいて清潔にするんだな」など、児童はよく考え、発言し、気付き、まわりの意見を聞いていた。授業を通して理解や認識をより深めることができた。</p>	<p>図やイラストを活用することで、児童の理解を深めることができた。</p>
86	中	小6	特別活動	エイズってなんだろう？	<p>保健「病気の予防」の授業を受けて、感染症としてのエイズについて正しい知識を与えることにより、差別や偏見を生まないように指導した。 指導内容として「体の抵抗力(免疫機能)」「エイズはどんな病気か」「エイズはうつりにくい病気」等扱った。 児童からは「感染者がそばにいても、普段の生活をしていたらうつらないことを知って安心した」「治療薬から感染してしまった人が多くいることを初めて知った。」などの声があった。</p>	<p>ICT機器を活用して資料を示したり、ワークシートを活用することで、児童の理解を深めることができた。</p>
87	中	小3	特別活動	いのちの始まりと誕生	<p>父親の持っているいのちのもと「せいし」と母親の持っているいのちのもと「らんし」が一緒になって命ができたということや、いのちの始まりはどのくらいの大きさだったのかということを一冊5cm角画用紙を手渡して確かめた。芽生えた命が母親のお腹の中でどのように育って生まれるのかを学習した。生まれるときは、赤ちゃん自身も母親に合図を送り、母親は陣痛を乗り越え、母親の産もうとする気持ちと生まれてこようとする気持ちが合わさって生まれること。生まれてからも事故や病気を乗り越えて今ここに元気に生きていること、命が守り育てられてきたことに気付き、命の重みと生まれてきてよかったという気持ちを感じられるように指導した。</p>	<p>講師：養護教諭</p>
88	中	小6	特別活動	薬物乱用防止	<p>薬物乱用防止教室に精神科で勤務する臨床心理士を招聘し授業を実施した。薬物乱用による身体的、精神的かつ、人的、社会的影響を学習することで、自尊心や自己肯定感を高め、自分の生活や命、家族や友人の生活や命の大切さについて考えを深めるきっかけとなった。 アルコールや薬物についての知識を習得することで、乱用することの恐ろしさを知ることができた。 児童一人ひとりが、自分自身の生活や考えを見つめ直す有意義な時間となった。</p>	<p>相州病院 臨床心理士</p>

89	中	小2	特別活動	「みんながえがおでいるために」	<p>学校生活で起きるできごとについて、登場人物の言動や気持ちを考えることを通して、相手の気持ちを思いやることの大切さに気付かせ、相手を傷つけるような言動をしない、許さないという気持ちを養うことをねらいとして授業実践を行った。動画を視聴しながら、「似た体験がないか」や「自分ならどうするか」を考えながら、素敵だなと思った子に宛てて手紙を書いた。その手紙を全体で共有することで、みんなで楽しく勉強したり遊んだりするために大切なことと、さらに自分には何ができるかを一人一人が考え、「言葉一つで相手の気持ちを温かくすることも傷つけることもできること」と「相手を思いやった言葉を使うことが大切である」ことに気付くことができた。</p>	<p>『人権学習ワークシート集』より  ・NHK for school「銀河銭湯パンタくん」の「タマミーのらくがき」を扱ったことで、具体的な場面を想像することができた。  ・ワークシート</p>
90	中	小5	特別活動	性被害について	<p>性被害について、ねらわれやすい時間帯、ねらわれやすい場所などを確認した。性被害を防ぐために、①出かけるときは、「誰と、どこで、いつ帰るか」を保護者に伝えること、②大きい道を通ること、③生活時間帯をずらすこと（いつも同じ時間に同じ場所を通ると待ち伏せされる可能性があるのを）、子どもたちと考えた。また、エレベーターに知らない人と2人きりになりそうなときや、知らない人に声をかけられたときの対応の仕方をロールプレイで練習をした。</p>	
91	中	小複合	特別活動	ジェンダーフリー	<p>4月、9月、1月に行っている身体計測では、養護教諭が絵本の読み聞かせを行っている。今年は、ジェンダーフリーをテーマに、全校生徒に対して3冊の絵本を読んだ。絵本は、父が二人いる家族がいたり、性差の決めつけを考えさせられたりする内容であった。子どもたちには、様々な家族の形があるし、自分がそうなくてもいいし、ありのままの自分の姿や気持ちを大切にしようということを伝えた。</p>	<p>「タンタンタンゴはパパふたり」（ポット出版）  「とりかえっこはっぴょうかい」（汐文社）  「マチルダとふたりのパパ」（岩崎書店）</p>
92	中	小5	特別活動	思春期の心の変化	<p>成長に伴い、体の変化だけでなく心も大きく変わっていく途上にある思春期について学んだ。初めに教師から思春期の変化について知識的側面を説明した後、実際に子どもたちがどのように感じているのか具体的に掘り下げていくことで、子ども自身の実体験をもとに学びを進めた。  男子と女子で、それぞれが互いについて思っていることを出し合い、思いのすれ違いや感じ方の違いがあることを知ることができた。「え?!」と驚く様子や「そっか…確かにそうかも」と自分を振り返る様子、「それはそういう意味じゃなくて…」「なんとかしたいなあ」と自分の思いとのずれにもどかしさを感じている様子など、様々な考える子どもたちの姿があった。</p>	
93	中	小3	特別活動	生命の連続「大切ないのち」	<p>書籍「いのちのまつり」を活用し、ご先祖さまの存在を考えることで、いのちがつながってきたことを再確認した。事前に行った保護者へのアンケートの回答を授業の中で紹介することで子どもたちは意欲的に話をきく様子がみられた。妊婦体験や赤ちゃん人形を抱っこする活動等を通して、大切ないのちの重みを感じている様子だった。そしてその大切ないのちを次につなぐ側へと成長していくことに気づき、自他のいのちを大切にするために自分に何ができるかを考え、皆で共有した。</p>	<p>指導者は養護教諭と学級担任。  書籍「いのちのまつり」赤ちゃん人形（出生時の重さ）から命の重みについてイメージがもてた。</p>

94	中	小3	特別活動	いのちの学習	<p>養護教諭による「いのち」についての授業を行った。児童は、写真などを見て、いのちの芽生えから胎児の発育の様子について知ったり、赤ちゃん人形を抱っこするなどの体験を通して、その存在の大きさに気付いたりした。さらに養護教諭の話からいのちは受け継がれてきたものだということを学んだ。この学習を通して、自分は周囲の人から見守られて成長していることや、自分だけでなく周りの人のいのちもかけがえのないものであることに気付くことができた。また、いのちの素晴らしさを感じることもできた児童もいた。</p>	<p>写真や赤ちゃん人形などの教材を活用することで、具体的なイメージがもてた。</p>
95	中	小4	特別活動	学年集会 「ありがとう」	<p>学年担当の教諭が産前休暇に入るため、お別れの会を開くこととなった。これまでお世話になったお礼の気持ちを伝えるために、児童は手紙などを用意し、教諭に渡した。教諭からは、児童と出会った頃の赤ちゃんの大きさと、今の赤ちゃんの様子が示され、実際の「心音」も聞かせてもらった。目に見えないくらい小さな時にも「心音」を聞いて、赤ちゃんの存在を感じてきたこと、その音を聞くととても幸せな気持ちになることが伝えられた。また、これまで各児童が教諭の体調を気遣って接してきたことへの感謝も伝えられた。児童は、教諭の赤ちゃんへの思いから、自分たちも同じように大切な存在であることを感じることもできた。</p>	
96	中	小2	特別活動	保健指導 「おへそのひみつ」	<p>「おへそ」がある生きものはお母さんのおなかの中で育ち、へそのおの役割を通して、自分たちは、お母さんのおなかの中にいるときから大切に育てられたことを知ってもらった。また、紙芝居を見たり聞いたりして家族の愛情に包まれて生まれてきたことや自分の誕生をみんなが喜び祝ってくれたことを理解させた。</p>	<p>紙芝居「おへそのひみつ」 紙芝居「うまれてきてくれてありがとう」</p>
97	中	小1	特別活動	いきものとなかよし	<p>動物園で小動物とふれあった。日頃、動物に接する機会の少ない児童もいたが、動物を近くから観察することで命のぬくもりを感じることもできた。振り返りでは、毛の様子や餌の食べ方など、気付いたことをたくさん発言していた。また会いたいと感想を述べる児童も多く、動物への親しみの気持ちが高まった。</p>	<p>小動物（モルモットなど）</p>
98	県西	小2	特別活動	「命の誕生」	<p>導入では、画用紙に付いた穴は何かを考え、命の始まりの大きさであることを知った。命とは何かを考えたのちに、おなかの赤ちゃんの様子について知っていることを発表した。児童からは「水の中にいる」「お母さんと紐でつながっている」などおうちの人から聞いたことがある情報を伝えていた。紙芝居で赤ちゃんのおなかの様子や誕生までの期待や不安などを知ったのちにゲストティーチャーから赤ちゃんが授かった時の喜びや現在の様子などについて話をしていただいた。普段、なかなか聞くことができない話に児童は真剣に聞き入る姿が見られた。おなかの中での赤ちゃんの成長や家族の思いなどを知ることで命の大切さを学ぶことができた。</p>	<p>授業者は、本校養護教諭。 ゲストティーチャーとして、本校総括教諭。 (まもなく産休予定)</p>

99	県西	小複合	特別活動	防災教育	<p>小田原市の学校防災アドバイザー派遣事業を活用し、講師を招いての講話とそれを受けての避難訓練を行った。天候等の都合で、講話は予め撮影し、それを各教室で全職員と全児童が視聴する形をとった。</p> <p>講話では、大きな地震が起こると、実際に自分たちの周りでどのようなことが起こるのか、その時どのような行動をすればよいのか、具体的にわかりやすく話ししていただき、児童は真剣に学習することができた。</p>	講師：常葉大学教授
100	県西	小複合	特別活動	中学校区合同引き取り訓練	<p>6月に中学校区の学校が合同で「小中合同防災引き取り訓練」を行った。複数学校が合同で行い、より緊急時に近い形を目指した。</p> <p>訓練では、緊急地震速報が発令された後、保護者は、その場から学校へ向かい、児童の引き取りを行った。また、災害発生を想定し、原則として徒歩で児童を引き取ることにした。</p> <p>保護者は、訓練の情報を受け取った場所から移動したため、家庭によって引き取り時間の差がでた。心配しながら保護者を待つ児童、3校も回らなくてはならない家庭など、緊張感のある引き取り訓練となった。下校では、危険個所を確認し、災害時にはどうしたら自分の命を安全に守ることができるのか考える機会になった。</p>	
101	県西	小複合	特別活動	人権週間	<p>11月に1週間の人権週間を設け、「自分も相手も大切に ～認め合おう 性格の違い、思いやろう 相手を、行動しよう 差別せず」というスローガンを設定した。全校朝会や講演会、地域施設との交流会などを行った。</p> <p>朝会では、どの子も考えが違うことを知り、友達との違いを受け入れていくことを学んだ。また、施設との交流では、金管バンドやソーラン節をお互いに披露し合った。お互いに良いところを伝え合い、小学生も施設の方も温かい心で言葉を交わすことができた。</p> <p>人権週間では、専門家を招いた事業を多数計画したことにより、人との違いを受け入れる機会となり、思いやりの心をもって接することを学ぶことができた。</p>	
102	県西	小1	特別活動	地震にそなえて	<p>防災訓練の経験を思い出し、地震等が発生した際に自分の身を守るために何をしたら良いか意見を出しあった。</p> <p>大震災が起こった後は普段の生活が一変してしまうこと等を伝えたことで、児童は日頃から震災が起こった時やその後の行動について周りの人と相談しておく必要性に気づき、今後にかしたいと考えていた。</p> <p>さらに、1月に火災避難訓練が実施された際にも、元旦に起こった大地震について触れた。自分の身にもいつ起こるか分からないことを話し、その時にどのように行動すべきか確認したことで、再度自分の身は自分で守る意識を強くしていた。</p>	(参考資料) 大地震の被災地の写真等